

### トリグリセリド・グルコースインデックスは孤立性拡張期高血圧患者における将来の慢性腎臓病発症を予測する

迫田 隆

鹿児島大学 大学院 医歯学総合研究科

**【目的】** 高血圧とインスリン抵抗性は慢性腎臓病の確立された危険因子である。しかし、孤立性拡張期高血圧における慢性腎臓病とインスリン抵抗性の関連は不明なままである。本研究では、孤立性拡張期高血圧患者を対象に、インスリン抵抗性の代用指標であるトリグリセリド-グルコース (TyG) インデックスと慢性腎臓病との関連を検討した。

**【方法】** 2007～2019年に2回以上の年次健康診断を受診した中年男性41,811人のデータベースを用いた。収縮期血圧140mmHg、拡張期血圧90mmHgをしきい値として4群に分類した対象者毎に、初回のTyGインデックスと将来の新規慢性腎臓病発症との関係を、COX比例ハザードモデルを用いて検討した。

**【成績】** 分類された4群の人数および割合と、TyGインデックス1単位変化あたりの慢性腎臓病発症の調整後ハザード比 (HR) および95%信頼区間は以下の通り：孤立性拡張期高血圧 (2,207人 (6.72%)、HR = 1.31、95% CI (1.06-1.62))、孤立性収縮期高血圧 (2,316人 (7.06%)、HR = 1.36、95% CI (1.12-1.64))、収縮期拡張期高血圧 (3,299人 (10.05%)、HR = 1.40、95% CI (1.19-1.64))、正常 (24,996人 (76.17%)、HR = 1.18、95% CI (1.09-1.28))。

**【結論】** 孤立性拡張期高血圧患者においてTyGインデックスを参照することは慢性腎臓病の早期発見に繋がり、インスリン抵抗性を改善することで慢性腎臓病の発症予防に役立つ可能性がある。